

# 横芝の碑

(その九十五)

## 別の名前で

## 信仰されている

## いぼ神の庚申様

〈新島〉

上塚小学校の正門前を、海岸の方に向って下りますと、間もなく左手にガソリンスタンドが見え、右手には間屋風の酒屋さんがあります。酒屋さんの前は、少し広場のようになっていて、其の所から斜めに右に入る道があります。この道は、新島と屋形の境界になっていますが、その新島寄りの道路沿いに、付近の人々が「いぼ神様」と呼んでいる庚申様が建っています。道路沿と言っても、この場所は道路敷内ではなく、酒屋さんの屋敷内なのです。

話によりますと、昔はもつと路肩の辺りに建っていたのですが、道路の拡張で移転を余儀無くされたり、文明の利器という自動車等の被害を受けて、倒されたり、壊されたりして、台座と本体が別々になって、時には路上にはみ出したりしていました。其の頃、山武郡社会教育委員連協の副会長であった若林仙太郎さん(酒屋さんの先代)は、「このまま放っておいて

若し交通事故等が起きては大変である。こんなことでは大人が若い人達に笑われて終うし、それに庚申様に勿体ない」と自分の屋敷内に移して祭ったのだということである。

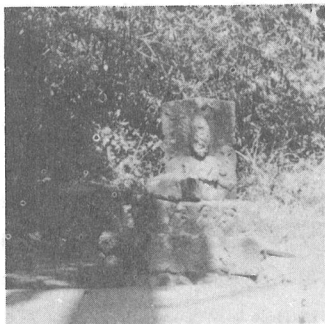
庚申様は、そうした話を裏付けるように、幾つにも壊れ、壊れた各部分が積重ねられて、これに支えられるような形で建っています。若林仙太郎さんという人の配慮がなかったならば、何処かに四散するか、草群等に埋もれて終っただろうと思われる位です。

そうした庚申様ですが、今でもいぼりの神様と呼ばれる位で、昔は、蓮沼や松尾方面からも、いぼ落しの祈願に来る人があったという事です。祈願する人は、庚申様の前に供えられた小石を借りて帰り、その石で患部を擦ると、不思議にいぼがとれた、というのです。霊験を頂いた人は、小石を倍にしてお返しするのですが、一時は、庚申様の周辺が小石の山に

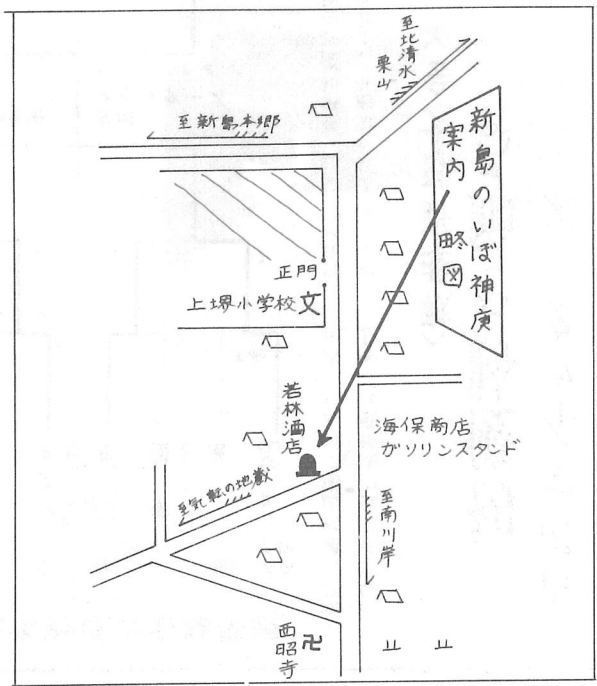
なったそうです。この風習は終戦直前まで続いていた、というのですから、霊験が顕著だったと思えます。

ただ不思議に思われるのは、里の人々が、いぼ神様という大たい分っているのですが、これが庚申様であることを、余り知っていないことです。

或本に、「もともと信仰とか宗教とかいうものの創りは『煩惱』という、人間の欲望による悩みから逃れるためには、総ての欲を空にして捨てること」という教えによるものだ、それが慈悲を与える、という形から、願望という欲望に転じ、信心によるご利益を期待するようになった。特に、圧力に堪え続けていた庶民の中に浸透して来た信仰には、祭神の絶対能力を信ずる場合よりも、其処に存在する形(例えば山岳とか、祠や石像、時には樹木)の力に頼って、我が身の利益を願う心が強くなっている」と書かれていたのを記憶して



いぼ神様といわれる庚申様



○写真は、いぼ神様と呼ばれている新島の庚申様で、三猿が刻まれた台座に寄りかかるように、上半身を見せて建っています。三猿の両側の猿が共に内側を向いているのは、大総方面の庚申塔に多く見かける図柄で、旧横芝や上塚地域は余り見かけない姿です。庚申様の正面には青面金剛、側面には寛政庚申十二年、と刻まれているのは判読できませんが、月日や施主の名前は、積まれた石に隠れて読みとれませんでした。(本稿取材に当り、新島の小高猶次氏と若林欽一氏のご指導とご協力を頂いたことを付言させていただきます)  
(小沢春光氏寄稿)